

私たちの間で実現した事柄について、最初から目撃し、御言葉に仕える者となった人々が、私たちに伝えたとおりに物語にまとめようと、多くの人がすでに手を着けてまいりました。敬愛するテオフィロ様、私もすべてのことを初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのです。（ルカ福音書1：1～4）

ルカ福音書は、イエス語録（Q）と既に書かれていたマルコ福音書と著者が持っていた特殊資料を駆使して編集された書物である。ルカ福音書は続編としての使徒言行録と繋がっている。福音書は「主イエスの時代」を、使徒言行録は「弟子たちの宣教時代」を書いている。著者は両書を書くことによって、神の救いの歴史を描き出している。主イエスの物語も弟子たちの宣教も線的に展開される神の救済史として捉え、出来事や人物を並行させている。例えば、主イエスの受洗の聖霊降下とペンテコステの聖霊降臨、主イエスの奇跡とペトロ、パウロの奇跡、主イエスのエルサレムへの旅とパウロのローマへの旅、主イエスの裁判とステファノの裁判など、並行記述して、救いの歴史を確認させている。また、ルカ福音書は、幼子イエスのエルサレム神殿における聖別、少年イエスの神殿訪問、主イエスのエルサレムへの旅、復活した主イエスのエルサレムでの顕現、そして、エルサレムから地の果てまでの宣教と、エルサレムを中心に描いている。著者が用いた特殊資料も、ルカ福音書の特徴づけ、読者の興味をひく個性的なものである。

著者は、パウロの同伴者の医者ルカであり、パウロの語ったことを福音書に書いたと言われていた。パウロ書簡に「愛する医者ルカ（コロサイ4：14）」「私の協力者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからもよろしく（フィレモン：24）」「ルカだけが私のところにいます（Ⅱテモテ4：11）」と3回、ルカに関する記述がある。ルカはパウロと親しく、宣教活動に協力した人に間違いがない。また、使徒言行録にはしばしば「私たち」と書き、著者とパウロが同行していることが記されている。更に、古代教父たちは、ルカ福音書の著者はルカであると書いている。だから、医者ルカが福音書の著者であると見なされてきた。しかし、医者ルカを著者にするには無理がある。ルカ福音書は、パウロの神学思想とは違い、パウロ書簡を知らず、読んでいないと思われるからである。著者は特定できないが、70人訳旧約聖書に通じ、引用が多いので、異邦人キリスト者ではないか。書かれた年代は、80年代と推定される。私の注解では「著者ルカ」と呼ぶことにする。

著者ルカは、格調高いギリシア語で、優れた修辭的技術をもって書いている。「私たちの間で実現した事柄について、最初から目撃し、御言葉に仕える者となった人々が、私たちに伝えたとおりに物語にまとめようと、多くの人がすでに手を着けてまいりました。」マルコ福音書は直截に「福音」と書いているが、ルカ福音書は「実現した事柄・物語」と書いている。この事柄・物語について、御言葉に仕えた人々が後世に伝えようと、多くの人が既に手掛けてきた。「敬愛するテオフィロ様、私もすべてのことを初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのです。」初めから詳しく調べているので、順序正しく書いて、敬愛するテオフィロ様に献呈すると言っている。献呈することによって、ルカ福音書の格式を高め、ギリシア名のテオフィロだから、ギリシア・ローマ人を対象にして、イエス物語を伝えようとして、書き始めている。